

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 27 日現在

機関番号：32726

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370254

研究課題名(和文)GHQ占領期における近代化及び古典再編に関する諸言説分析を総合する文芸史的研究

研究課題名(英文)A study on literary history based on discourse analysis on modernization and canon formation in the GHQ occupation period

研究代表者

志賀 賢子(川崎賢子)(SHIGA(KAWASAKI), Kenko)

日本映画大学・映画学部・教授

研究者番号：40628046

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：継続的に米国公文書館及びメリーランド所蔵プランゲ文庫資料調査を現地で行った。プランゲ文庫資料を検閲の記録としてのみならず、草の根の表現及び言論の場として、そこから近代化、古典化、カノンの形成についての言説・表象を汲み上げて蓄積し分析した。これを公文書館資料と照らし合わせることで資料の位置を相対化して理解できた。文学者文化人の個人ファイル発掘のほか、クリントン大統領のワーキンググループが再編したIWG資料中にも、戦時下占領下の日本文化についてのファイル等が含まれ、その分析がなされていることを確認した。成果物として論文執筆、研究例会運営、占領期雑誌を総覧する企画展及び国際シンポジウムなどを行った。

研究成果の概要(英文)：The researcher conducted a survey on the documents of The National Archives at College Park, Maryland and Gordon W. Prange Collection, University of Maryland. We analyzed Prange Collection material not only as a censored record but also as a grassroots expression and gathered discourses and representations on modernization, classicalization, and formation of canon. By comparing Prange Collection material with archives library materials, we could understand the relative position of the material. In addition to the excavation of personal files of literary citizens, IWG materials reorganized by President Clinton's working group also confirmed that the file of Japanese culture under wartime occupation was included and analyzed. Worked on writing articles, managing study meetings, "Opening Occupation Period Magazines" exhibition and international symposium.

研究分野：日本近現代文学

キーワード：日本文学 近代化 古典化 カノン 検閲 GHQ カストリ雑誌 IWG

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究開始当初、占領期研究については、米国メリーランド大学所蔵のGHQ 検閲資料であるプランゲ文庫のデータベース(20世紀メディア情報データベース)を用いた検閲研究が進行しつつあったが、これを米国公文書館所蔵資料と突き合わせてインテリジェンスの側面から検証することはほとんど手つかずであった。

(2) GHQ 検閲研究と、戦前戦中の内務省検閲の連続と非連続、およびGHQ 検閲への対処としてメディアが内面化した自主検閲、自粛というその後長く続く問題の研究とは、接続されていない。

(3) 戦後占領期における文学概念の近代化、古典化、カノンの形成をめぐることは、中央の文芸専門誌上の言説によって再構成されることが多く、プランゲ文庫資料が示す広範な草の根の大衆の言説の動向についての検証が手つかずであった。

2. 研究の目的

(1) 本研究は日本文学史における戦後占領期の変容に注目し、近代化、古典化、カノン形成、戦後の言語空間におけるつくられた伝統を解明することを目的とする。

(2) 大衆文学、大衆文化、文学の隣接諸ジャンル(演劇、芸能、映画など)を参照し、文芸の戦前・戦中・戦後の連続と非連続について、実相を明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 米国公文書館資料を参照し、プランゲ文庫資料の位置づけ、相対化、インテリジェンスの側面からの検証を行う。

(2) プランゲ文庫資料および米国公文書館資料を中心に、文芸の近代化、古典化、カノン形成に関わる言説と表象の資料を収集し、分析する。

(3) 大衆文学大衆文化メディア、文学の隣接諸ジャンルを合わせて学際的に占領期の言語空間を考察する。

4. 研究成果

(1) プランゲ文庫および米国公文書館における調査を行い、占領期のメディア政策、検閲政策の資料を収集し、特に公文書館の個人ファイル、IWG(The Nazi War Crimes and Japanese Imperial Government Records Interagency Working Group)資料等の中から、戦時下占領下における日本文化人、日本文学者のプロパガンダ、インテリジェンスについての新資料を発掘することができた。

(2) プランゲ文庫資料および早稲田大学所蔵福島鏑郎個人コレクションのカストリ雑誌を調査し、草の根の大衆の書き手の発信を分析することで、戦前戦中戦後の文芸の連続と断絶について、新たな知見を提出することができた。サークル誌、職場の雑誌、新制高等学校・旧制高等学校・大学等の校内同人

誌・地方誌などを渉猟し、占領期におけるアマチュアの書き手の表現の水準を考察したことに加え、著名な書き手の単行本全集等未収録作品の発掘なども行なった。

(3) プランゲ文庫資料を活用し、占領期における俳句・短歌ジャンルの批判である桑原武雄「第二芸術」論が、検閲によってどのように変更を強いられたか、また広範な実作者たちにどのように受容され、短詩型における「伝統」概念および「古典」概念と「近代化」概念がいかに再編されることになったか、その一端を明らかにすることができた。

(4) 戦時下占領下におけるインテリジェンス研究、プロパガンダ研究、検閲研究などを学際的国際的に進めている20世紀メディア研究所(早稲田大学)における研究例会、査読付き学術誌の運営、編集に参加し、2016年9月1日から21日まで、早稲田大学大隈タワー125記念室における「雑誌に見る占領期」展を開催した。会期中に国際シンポジウムを開催し、司会を務めた。また米国における占領期研究の先駆者であるジョン・ダワー氏の寄稿を仰ぎ、報告書小冊子の作成に関わった。企画展およびシンポジウム、月例の研究会等は一般に公開され、印刷物による成果報告に加えて、研究所のホームページ、会員ブログ、ネット配信されるニューズペーパー等を通じても成果が公表された。

(5) 上記の企画展および国際シンポジウム、シドニー大学における戦後70周年記念国際学会での発表、クィーンズランド大学におけるワークショップおよび、20世紀メディア研究所の機関誌『Intelligence』編集などを通じて、占領期の日本文学日本文化研究に関する英語圏の研究者とのネットワーク構築に着手した。この間、オーストラリア国立大学のテッサ・モリス=スズキ氏の寄稿論文、国際シンポジウムにおけるウィスコンシン大学のルイーズ・ヤング氏の報告等を通じ、本研究が戦前・戦中・戦後の連続と断絶として問題にしている言語空間を、「貫戦期(trans war regime)」の枠組みで再検証するという新たな視角を得た。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 16 件)

川崎賢子 宝塚的歴史ロマンの構造とその源流をたずねて：『我が愛は山の彼方に』再考、『上方芸能』194号、14-20頁 査読なし、2014年12月

川崎賢子 半壊のシンボル：吉屋信子と総合的欲望の共同体、『ユリイカ』46巻15号、2014年12月42-49頁、査読なし

川崎賢子 十蘭つれづれ—偽書をかきわけながら 『文藝』別冊、2015年2月、120-129

頁、査読なし

川崎賢子 「第二芸術」再考：GHQ 占領期における文芸の近代化と古典化の視角から、『Intelligence』vol.15,59-72 頁、20 世紀メディア研究所、2015 年 3 月 査読あり

川崎賢子 棘をひそめて、香り高く、吉屋信子『からたちの花』解説、275-285 頁、査読なし、2015 年 9 月

川崎賢子 書評中野正昭編「ステージ・ショウの時代」、『日本演劇学会紀要』62 号、123-128 頁、2015 年 6 月、査読あり

川崎賢子 李香蘭研究の新視角—米国公文書館「山口淑子ファイル」の検証から、『Intelligence』vol.16,27-38 頁、20 世紀メディア研究所、2016 年 3 月、査読あり

川崎賢子 「もう一人の彼女 李香蘭/山口淑子/シャーリー・ヤマグチ：「李香蘭」誕生と「父」たち」『図書』806 号、30-35 頁、岩波書店、査読なし、2016 年 4 月

川崎賢子 もう一人の彼女：李香蘭/山口淑子/シャーリー・ヤマグチ：「李香蘭」の延命と「シャーリー・ヤマグチ」の誕生、『図書』808 号、34-39 頁、岩波書店、査読なし、2016 年 6 月

川崎賢子 映画へ/映画から—尾崎翠の文学的転機 『文学』17 巻 4 号、189-207 頁、岩波書店、2016 年 7 月、査読なし

川崎賢子 もう一人の彼女：李香蘭/山口淑子/シャーリー・ヤマグチ：チャイナドレスのアメリカ 『図書』810 号、34-39 頁、岩波書店、2016 年 8 月、査読なし

川崎賢子 もう一人の彼女：李香蘭/山口淑子/シャーリー・ヤマグチ：「ノグチ・ヨシコ」誕生まで、『図書』812 号、34-40 頁、岩波書店、2016 年 10 月、査読なし

川崎賢子 もう一人の彼女：李香蘭/山口淑子/シャーリー・ヤマグチ：石垣綾子と山口淑子、『図書』814 号、42-47 頁、岩波書店、2016 年 12 月、査読なし

川崎賢子 もう一人の彼女：李香蘭/山口淑子/シャーリー・ヤマグチ：幻の「支那の夜」を求めて、『図書』816 号、38-43 頁、岩波書店、2017 年 2 月、査読なし

川崎賢子 研究動向尾崎翠 『昭和文学研究』74 集、176-179 頁、昭和文学会、2017 年 3 月、査読あり

川崎賢子 映画「支那の夜」に対する検閲の

多元性—米国公文書館所蔵 IWG 文書を参照して、『Intelligence』vol.17、124-134 頁、2017 年 3 月、査読あり

〔学会発表〕(計 2 件)

KAWASAKI Kenko, The Takarazuka Revue as Filmed by the United States Strategic Bombing Survey (USSBS): Continuity and Discontinuity from Pre-war to the Occupation, Wounds, Scars, and Healing: Civil Society and Postwar Pacific Basin Reconciliation 戦後 70 周年記念国際シンポジウム。2015 年 9 月 30 日から 10 月 2 日、於シドニー大学。

川崎賢子 1940 年代複数の検閲：支那の夜、シンポジウム戦争・アジア・検閲、2016 年 12 月 17 日、於大妻女子大学テキスト・草稿研究所

〔図書〕(計 3 件)

川崎賢子 尾崎翠を読む：尾崎翠のいる文学史、78-97 頁、『尾崎翠を読む』、今井出版、2016 年 1 月、共著、全 169 頁

川崎賢子 「草の根の文学—地方で、職場で、磨かれ鍛えられた言葉」「お楽しみはこれからだ—大衆娯楽の古きものと新しきもの」、16-18 頁、20 世紀メディア研究会 100 回記念企画展、冊子『雑誌に見る占領期』、20 世紀メディア研究所、2016 年 9 月 1 日、共編著、全 24 頁

川崎賢子 『定本夢野久作全集』共編著、国書刊行会、2016 年 11 月、全 554 頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

20世紀メディア研究所(早稲田大学)のホームページ。

運営、月例研究会司会、機関誌(査読付き)編集等を手がける。

<http://www.waseda.jp/prj-m20th/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

志賀 賢子 (川崎 賢子)

(SHIGA [KAWASAKI] KENKO)

日本映画大学・映画学部・映画学科・教授

研究者番号：40628046

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()